

2年前、東日本大震災が発生したときに感じた
人と人との絆の大切さや
支え合うココロの温かさ。
私たちの暮らす三芳町。
この町には、たくさんの「ココロ」が詰まっています。
皆さんが持つ「温かいココロ」が集まれば
力となり、地域活動やボランティアとして
誰かの役に立つことになるかもしれません。
「ココロまち」
あなたが嬉しいとわたしも嬉しい。
あなたが嬉しいとわたしも嬉しい。
ココロがあふれるまち。みよし。
皆さんの温かいココロによって
地域が、町が、支えられているのではないのでしょうか。

あなたが嬉しいとわたしも嬉しい
特集 ココロまち
- おわり -

被災地に届ける みよしのココロ

東日本大震災で被災した人たちを応援するため、ボランティアの皆さんが、被災地支援を行っています。

震災から2年。未だ仮設住宅に住む人たちへ
東日本大震災が発生してから2年が経とうとしています。しかし、いまだに仮設住宅で生活をしている人たちがいます。
福島県新地町にある仮設住宅団地「がんど屋」には現在347人が入居しています。原発事故の影響や津波の被害で、避難を余儀なくされている大熊町や双葉町、浪江町、南相馬市などの人たちが暮らしており、

また来てくれたんだね。待ってたよ。



←一軒一軒プレゼントした「リース」にはメッセージが添えてある。



←現地の子どもにネイルアートを楽しんでもらう様子。とても好評でした。



←2年経った今も仮設住宅で暮らす人たちがいます。

慣れない場所、見知らぬ人ばかりという環境のため、心のケアや人との繋がりが課題となっています。
そこで、三芳町の元気な「ココロ」を被災地の人たちへ届けることができないうかがと考案結成されたのが「新地町応援隊」です。
**神輿が津波に流されて
以前の祭りができない**
社会福祉協議会が主体となり、ボランティアを集い、「入居者同士の繋がりづくり」や「楽しく・リフレッシューできる時間づくり」をモットーに、現在まで4回、延べ125人が被災地へ向かい、サポートを行っています。
「神輿が津波に流されて、以前のよう祭りができない……。」という話を耳にすれば、夏まつりの雰囲気を感じてもらおうと、焼きそば作り、ヨーヨー釣りなどの催しを行い、12月の訪問の際にはクリスマスを楽しんでもらおうと、サンタクロースの格好をして、仮設住宅の一軒一軒にプレゼントを届けるなどしました。
このプレゼントは、現地に行けない人たちが、みよしの「ココロ」を届けてほしいという思い



↑「がんど屋」の皆さんとボランティアと集合写真。皆さん、ココロから笑顔に。次の活動は3月の予定。

から作られた「リース」。現地に行かなくても、みよしのココロは、被災地の皆さんを見守っています。
仮設住宅にバスが到着すると現地の人たちは待ちかねた様子でこう言ってお出迎えてくれるそうです。
「また来てくれたんだね。待ってたよ。」
そして応援が終わり、帰りのバスに乗り込む時、被災者の皆さんは涙を流し、こう言ってくれます。
「また来てね。」
再び故郷に帰宅する日を心待ちにしている、被災地の皆さんとの再開をココロまちに……。